

安土町立老蘇幼稚園

日時：平成21年11月20日(金) 13:00~17:00

平成21年11月26日(木) 9:00~17:00

場所：蒲生郡安土町東老蘇1300番地

老蘇幼稚園から旧中山道を北へ15分ほど歩くと奥石神社の老蘇の森に着きます。参道には紅葉が点在し、森の中は杉と榎の木々などで太陽の光も届きにくいぐらいい茂っていて、地面は一面落ち葉で覆われその下には木の実やたくさんの生き物が住んでいそうなフィールドを活かしたプログラムを作りました。

(対象：年長16名 年中18名 合計34名)

1回目は講座、下見とプログラム作り、2回目は作成したプログラムの実践とふりかえりです。講座の一部を紹介します。 講師 島川武治(しまっち)さん

今回の講座では、プログラムづくりの大切さについて学びました。自然体験は、子どもたちが自然の物や生きものたちと直接触れることで、命の大切さなどについて学びます。

そのことを子どもたちにどのように伝えるか、プログラムにはたいへん重要な役割があります。

「プログラムを作るときのイメージとして
自然はきれい、善というイメージ
多様な生き物が生きている、おちつく、楽しい
プログラムは楽しいと感じるもの
自然の循環がわかるもの
つながり、無駄な物がない
自然に生かされているという意識が芽生えるもの
そして、一番重要なのはメッセージとして子供たちに何が伝えたいのかである」と話されました。



プログラムづくり



葉っぱあそび



木の温度くらべ

「森の中で忍者になろう!!」のプログラム

忍者になるために、音を立てないように葉を踏んだり、葉っぱに隠れて葉っぱや木のおいをかいだり、木に抱きついて木になりきる修行などをします。森の自然を忍者になりきって体感して、森にはいろんな木や葉の感触、においなどがあることに気づくプログラムです。



秘伝の巻物



音を立てないで歩くの？



ふわふわしてきもちいいよ

木になれている？



忍者になる修行じゃ！



忍者の印だよ！



忍者は五感を研ぎすまし自然と共に生きていることを実感し、自然を大切にしていることに気がつきました。

「森へのプレゼントを作ろう」のプログラム

グループに別れて、グループみんなで森の自然（木の実、どんぐり、動くもの、森で生まれないもの、森の赤ちゃん、変身した葉っぱ）をさがします。最後に、森で見つけたものを使って森の生き物たちへのプレゼントをつくります。いろいろな感覚を使って森の自然などに気づくプログラムです。



森へのプレゼントだね！

うごくものいる？



森の赤ちゃんってわかる？



森で生まれない物あったよ

フィールドビンゴカードだよ！



森にはたくさんの生き物が住んでいるのに「森で生まれないもの」がたくさん見つかって「少しがっかり」していましたが、森に住んでいる生き物たちに木の実などをプレゼントして「食べてくれるといいね！」といいながら小さな手を合わせて森をお願いしている子どもたちの姿が印象的でした。

「木とあそぼう！」のプログラム

子どもたちがキツツキになって、いろいろな木をさわったり、たたいたり、においだり、耳をあてて聞いたり、抱きついたりなどをして、木から木へと次々とお引越しをしていきます。森の木にもいろいろな違いがあることや、助け合って生きていることに気づくプログラムです。

モリモリマン・お助けまんの登場！



木も助けあっているね！



お引越しだよ！

さわってどう！



こっちの木はざらざらしているね！



森の中でみんなが手をつないで空を見上げて見ると、森の木たちも子どもたちと同じように手をつないで、助け合って生きているように見えました。その景色に「めっちゃきれい」と自然の美しさに感動した子どもたちから歓声があがっていました。

私たちが子どもの頃、自然の中であそびながら子どもたち自らが色々と学んでいくという事が、ごく当たり前のことでした。しかし、今では大人たちが「きけん！あぶない！」と子どもたちを森から遠ざけ、自然と接する機会を奪っているようにも思います。これらの自然体験プログラムを通して楽しんでいる子どもたちの姿を大人たちに是非見てほしいと思います。



上を見てください！！